

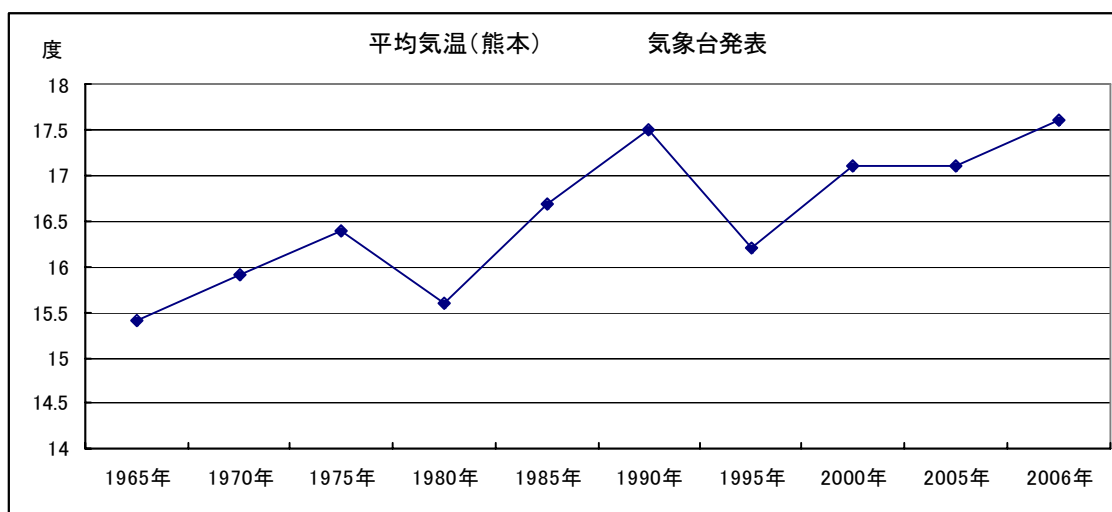
1 事業取組の背景

●年々暑くなっている・・・

熊本地方気象台によると、今年の7月の平均気温は27度、8月は29.4度、また最高気温となると7月が36.4度、8月は37.1度と非常に暑い日が続いた。年間の平均気温も30年前と比べると1.5度以上上昇している。(グラフ1)

近年は、地球温暖化の影響もあるといわれており、熊本は全国的にも暑さが厳しいうえに、集中豪雨や猛暑などの天候不順で、夏場の野菜の収穫量は不安定化が強まっている。

(グラフ1 平均気温の推移(熊本) 気象台発表)



●熱さに強い野菜を作ろう！

農業研究センターでは、毎年、農業者や消費者、関係機関等に広く要望調査を行い、その意見や要望を踏まえ試験研究課題の設定を行っている。その中でも、やはり夏場の野菜不足に対応するため、栽培時の暑さに強く、短期間で収穫できる新品目・品種を望む声が数多く上がってきた。

また、近年、消費面においては、体によい食べ物への希求から、健康機能成分を持った農産物へのニーズが高まってきている。

これらの要望、ニーズに対応すべく、当センターでは、機能性を兼ね備えた暑さに強い野菜を作ろうと検討をはじめた。しかし、新規に育種するとなると、10年単位の長い年月と素材の持ち合わせ(収集)、そして労力が必要となる。

そこで、これらの状況に迅速に対応するために、亜熱帯地域の大学や研究機関、種苗会社等と連携し、現地から耐暑性及び機能性成分を持つ種子を導入し、栽培方法や調理方法を確立するとともに、いち早い現地への普及を図ろうと「耐暑性健康増進作物導入促進事業」に取り組むこととなった。